

モジュール・ブックのねらいと作成上の留意点について、「個別学習のストラテジー」（森川久雄編著，明治図書）では，次の項目をあげている。

ア 個別的に情報が提示でき，しかもセルフペースの学習ができ，このモジュール・ブックに従って学習していけば，完全習得が可能であること。

イ 教科書の詳しい解説書で，生徒が自分で読むだけでも十分理解が可能であること。

ウ 講義で話すような内容が，なるべく盛り込まれるようにすること。

エ サブノートの役割をもたせ，復習や，テスト前の学習がしやすいこと。

オ 教材を精選し，基本的事項と応用・発展的事項を区別し，まず基礎的事項の定着をねらい，基本的事項の学習だけでも，つぎのモジュール・ブックへ進めるようにすること。

カ モジュール方式を採用するため，学習内容のひとつとまもり（これを1モジュールと呼ぶ）を一冊のモジュール・ブックにまとめること。（2～3時間授業分）

キ 一つのモジュールごとに，形成的評価ができるようにチェックテストを入れること。

ク 生徒が自分でやったことの即時確認ができるよう，解答はできるだけ詳しく入れること。

ケ 問題と，生徒自身がつくる答えは，同じ場所にあった方が復習しやすいと思われるので，モジュール・ブックの中に解答スペースをとり，演習ノートの役割をもたせること。

コ 学力が高く，進度の速い生徒のために，応用・発展モジュールを作ること。

モジュール・ブックでは，提示される情報の多くが文章によって表現されるので，文章の読解力が弱く，内容が理解できなかつたり，学習に時間のかかる生徒に対しては，文字以外の媒体を通して説明を加え，学習を促す必要がある。そのためには，VTR・テープの利用などが適切であると思われる。

また，モジュールによる学習は，学習の個別化と生徒の主体的な学習を旨とするものであるが，「現代社会」の学習のすべてにわたってモジュールによる学習を展開するのではなく，モジュールによる学習とともに種々の学習方法を取り入れて，より効果的な学習を展開することが必要であろう。